水都おおさか森林（もり）の市 2011

近畿中国森林管理局

国有林野事業の取組

大阪市立扇町総合高等学校吹奏楽部によるオープニングパレードの様子

昨年10月8日(土)・9日(日)の2日間、大阪市内(近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮（けまさくらのみや）公園とOAP周辺)において、「水都おおさか森林の市2011」が開催されました。「水都おおさか森林の市」は、近畿中国森林管理局が事務局となり、森林・林業及び水資源に関わる行政団体や民間団体、地元住民のご協力により毎年開催しているイベントであり、今回で25回目となります。

今回は、「2011国際森林年　暮らしの中に木づかいを　活かそう日本の森林」をキャッチフレーズとして、都会の真ん中で森林や木を感じられる空間を演出し、実際に木に触れることで木の良さや温もりを感じて頂きながら、森林・林業の大切さや木材利用の重要性について理解を深めて頂くことを目的として開催。また、大阪は「水都おおさか」の名のとおり、古くか

大阪市立扇町総合高等学校吹奏楽部の演奏による開会式

木製品等の様々なブースに立ち寄る来場者

ら川を利用し、川の恩恵を受けて発展してきた都市であることや大阪の水源が近郊の森林であることを来場者に伝えることも目的としました。

オープニングセレモニーは、地元大阪市内の高等学校吹奏楽部によるマーチングパレードにはじまり、特設ステージでは、実行委員会会長の挨拶、副会長による「大阪締め」で力強く開幕しました。続いて、琴や三味線による演奏、マジックや木製品のオークションなど、14の出演団体による様々なパフォーマンスがステージを盛り上げました。

会場内では、丸太切りや本箱づくり、木工教室や薪を使ったピザ焼きなどの体験コーナー、木製品・地域の特産品などの販売コーナー、地域の林業を紹介するパネル展示、キッズボート・ドラゴンボートの水上体験など、57の出展団体による様々なブースが並び、子供から大人まで楽しめるイベントとなりました。また、会場全体を楽しみながら回って頂く企画として、各日先着1、000名に苗木や木製品をプレゼントするスタンプラリーを実施しました。緑の募金活動、東日本大震災の義援金の募金活動も合わせて実施しました。

森林管理局主催の丸太切りの様子

局舎の前を流れる大川でドラゴンボート

緑の募金活動をする緑の少年団

親子でキッズボートを満喫

また、この森林の市では、「平成23年度グループ対抗里山デジカメ選手権」の最終審査会及び表彰式も行われました。

当選手権は、里山に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの撮影を通じて、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的としたもので、今回で5回目となります。今回は、「身近な森林（もり）の再発見!!」をテーマにデジタル写真の作品を募集したところ、学校、森林・林業活動グループ、企業や家族など全国から69グループの応募があり、一次審査を通過した30グループの最終審査を行いました。審査では、各グループの代表から日ごろの活動や作品の説明、里山への思いをききとり、単に映像の美しさにとどまらず、作品に込められたメッセージ性も踏まえて、林野庁長官賞（最優秀賞）をはじめ10点の入選作品が決定されました。

2日間とも好天に恵まれ、延べ約2万5千人の来場者で賑わい、「毎年楽しみにしている」、「今後も続けてほしい」という声の他、「珍しい体験が出来た」、「森林や水の大切さがわかった」、「自然を守りたいと思った」などの来場者の声も頂きました。

本箱等をつくる親子